書　評

鎌田浩毅著「火山はすごい　日本列島の自然学」

PHP新書，240ｐ．740円＋税，2002年

千木良雅弘*

「火山はすごい」。タイトルからして，著者の意気込みが感じられる。プロローグも，「この本は火山の本だ。火山がどんなにすごいか，目いっぱい書いてある。」と始まる。著者は、対象読者をビジネスマン，大学生・高校生，主婦と想定し，すべて自らの経験にこだわって，火山のすごさを書き連ねている。それだけに，表現には迫力がある。しかも，単に目を引くような言葉を並べているわけではなく，読み進むうちに自然に火山の基礎的な知識を身につけ，重要な用語を理解できるように配慮されている。今までにない切り口である。近年，有珠山，三宅島と続けて噴火が起こり，一般の火山への興味が盛り上がっているだけに，タイミングの良い著作でもある。

著者は，いかにして火山に惹かれていったかから始め，順を追って，阿蘇山，富士山，雲仙普賢岳，有珠山、三宅島と書き進んでいる。いずれも近年話題になっている火山である。そして，地球科学的なこととともに，有珠山の 2000 年噴火の時に初めて噴火予知が成功して住民が安全に避難できたこと，三宅島の 2000 年噴火時にも予知と避難が成功したこと，また，火山ガス放出の継続によって住民避難が長期化していること，など，社会と火山活動，そして，火山学者との関わりについて熱く語っている。

著者は，火山災害を防ぐためには，社会に火山のことを理解してもらうことが不可欠であることから，本書を執筆しているように見うけられる。文中には，2000 年の三宅島噴火時の東京都副知事の言葉が引用されており，火山学者の一言一言が持つ社会的重要性と火山学者の社会的責務を強く認識した著作と言えよう。自然災害に関係する人達にぜひ一読を勧めたい本である。

* 京都大学防災研究所